

畜養施設と佐賀漁港の整備体制は

カツオ産業の活性化に

連携し取組む／町長



やまもと ひさお 議員  
山本 久夫

を守り、少しでも前向きな取組みが必要である。そのためにも、今回の活餌の畜養施設も佐賀の漁業には必要不可欠な施設であると考ええる。その施設があることで様々な相乗効果があることは周知していることと思う。

問

現在、漁協が主体となり県と町の補助事業で取組んでいる活餌の畜養施設と、その施設を有効活用するための整備計画について聞きたい。

畜養施設については平成16年から平成19年まで活餌の事業に取組み、その取扱量は杯数にして約1万杯、金額にして、およそ6千万円の実績がある。

漁業を取巻く環境は大変厳しいものがある。だからこそ、漁協が中心になり佐賀の漁業

施設を設置しても継続がなければ目的は達成できない。だからこそ今後の支援体制が重要な課題であると考えます。県も佐賀のカツオには力を入れ、支援体制を整えている。町も県との連携した取組みが必要であり、畜養施設を有効活用するためにも、市場の既存施設を含めた整備も必要と考える。現在、県が漁港の既存施設について調査を実施している。維持管理と更新が目的の調査と思うが、漁協にとって良い事業であれば、県に対し要望等も必要ではない

か。

畜養施設の事業主体は漁協であるが、カツオに代表される佐賀の漁業を守り、この活餌の畜養施設を核として町全体の振興を図るためにも、県と町と漁協が、運営から管理まで施設を継続するための協力体制を整え、町としてソフト、ハード面からの支援が必要と思うが町長の考えを聞きたい。

答

大西町長

谷口 海洋森林課長

漁港としての計画は、畜養水面の浚渫しゅんせつで終了となり、それ以降の計画については今のところ把握していないが、施設整備については、畜養コワリを整備したことで活餌の畜養がスムーズにできるようになった。

これからは入港船が増える事を想定し、過疎計画に施設整備を計上している。

計画の内容は、冷蔵保管



佐賀港の蓄養施設

庫、鮮魚自動選別機、漁船漁具修理施設、そして品質向上を図るための冷凍施設などを。また、これらを整備していく中で、水揚げの円滑化。氷、燃油の供給体制の確立。水揚げから販売までの鮮度保持。時間外水揚げの可能性等について漁協と協議している。県との連携についても、佐賀地

域で活餌供給事業の成功と継続に向け、要望するだけでなく、県には来町した際、漁業者、漁協、町そして活餌事業者等を交え、それぞれの立場で助言をいただいている。今後関係機関との協議を重ね連絡を密にし、いろいろな情報交換をしながら取組んでいきたい。